

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1890200023		
法人名	有限会社 みつばち		
事業所名	グループホーム みつばち 愛		
所在地	福井県敦賀市野坂20-1		
自己評価作成日	令和 3 年 12 月 7 日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/18/index.php">http://www.kaigokensaku.jp/18/index.php</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 福井県社会福祉協議会
所在地	福井県福井市光陽2丁目3番22号
訪問調査日	令和4年1月12日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

家庭的な雰囲気の中で入居者様に寄り添い安心して穏やかに過ごして頂けるように心掛けている。また 入居者様の能力を大切に、生活支援している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当事業所は、敦賀市南西部、野坂山丘陵地にあり、敦賀市街を一望できる場所に立地している。会社の理念「奉仕の心でつなぐ愛の手を」と、利用者の日常生活を考える「基本方針」を作成している。職員はこの理念と基本方針に基づく事業所理念として、「笑顔で一日を」を作成し、毎朝のミーティングで唱和している。その他にも、「去年の反省点と今年の目標」を作成し、理念の実現に向けて業務に取組んでいる。また、看護体制を充実し、重度化、終末期と看取りに取組んでいる。さらに、「愛ユニット」は、建物構造(鉄筋コンクリート造り)を活かした耐震強度となっており、一時的な避難所として利用できる。コロナ禍のため、馴染みの関係や地域交流、外出支援ができない状況ではあるが、利用者は家庭的な雰囲気の中で、笑顔ある穏やかな日々を過ごしている。当事業所で特に優れていることは、毎年、外部評価を受けて施設の質の向上に努めていることである。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「笑顔で一日を」を毎朝申し送り後にスタッフ全員で唱和し、業務中も常に心がけている。	会社の理念「奉仕の心でつなぐ愛の手を」を基に、事業所理念を「笑顔で一日を」と掲げ、毎朝のミーティングで唱和しその実践に努めている。今年度の目標を検討し、職員各自が昨年度の反省を踏まえた新しい個人目標を立て、理念とケアの実践につながる取組みを行っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	さくら保育所の園児とプレゼント交換をしている。季節の行事には保育所へお菓子などを届けている。	町内会に加入しているが、新型コロナウイルスの影響で地域活動や行事は実施していない。2か月ごとに作成する広報誌「みつばち通信」の町内会への回覧、サロンへの参加、保育園との交流を続け、地域との関係継続に努めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議などを利用している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	日常生活の様子や関わりなどを話し民生委員の方や家族様の意見を取り込んでいる。	運営推進会議は、区長、民生委員、家族代表、介護事業所長、市職員等の参加を得て、奇数月に開催している。会議では、事業所の運営状況を報告し、身体拘束委員会も同時に開催し、委員から助言・要望等を得ている。会議録は家族へも送付している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	わからない事や不安に思う事は相談している。	運営推進会議に市の長寿健康課が毎回出席するほか、利用者支援の助言、事業所の運営等、日常的な報告、連絡、相談を行っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	布団やベット柵などに鈴をつけ 自由に過ごして頂けるよう工夫し、職員は音に反応するようにし 拘束しない方向で努めている見回りも強化している。	身体拘束の基本方針とマニュアルを整備し、内部研修を2~3か月ごとに実施している。運営推進会議の中で身体拘束適正化委員会を開催し、職員会議で報告・協議し、拘束のない支援に取り組んでいる。玄関戸は取っ手のフックをつまめば開錠できる。夜21時から翌朝6時までは施錠している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	言葉づかいや言動に注意し、努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	必要性がある場合には家族に話している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時に説明するがそれ以外では 受診時や利用料支払い時を利用して話している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時や来所時に意見を聞くようにしている。(意見箱を設置しているが書く家族様はいない)	各ユニットの玄関に法人・事業所の理念が書かれた額、意見箱を設置している。苦情解決制度の説明をしている。コロナ禍で家族面会の制限があるため、電話・メールの利用や、毎月の請求書の送付時に手紙や広報誌「みつばち通信」とともに利用者の状況が分かる写真を同封している。アンケート等は実施していない。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティング等で要望や意見を聞き 反映できるものについては行っている。	人事考課制度は取り入れていないが、社長、管理者が普段から事業所内 にいることで、朝の連絡会、ミーティング、ケア会議等、通常業務時に職員の提案、意見、気付いたことを協議し、その都度話し合い、業務に反映することができる環境が整っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	資格取得時や休日出勤その他必要時はその都度状況を把握し、整備している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修への参加を促したり ミーティング内でも勉強会を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	県内の事業所へ見学に行き 交流の機会を設けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人の訴えをよく聞き 安心して過ごせるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居申し込み時や契約時 入居後の来所時に不安や困っていることがないか聞くよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人や家族から何を求められているか 何を今必要としているかを聞き取り時に 主点を置き支援につなげている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家族のような雰囲気でも過ごせるよう努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	良い関係が保たれるよう努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	出来るだけ可能な限り支援に努めている。	独自書式「基本情報調査用紙」があり、様々な情報を書き込んでいる。コロナ禍のため、面会や外出等のほとんどが実施できていない。年賀状、みつばち通信、日常の散歩、車によるドライブイベントを行っている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士あいさつをしたり 元気のない入居者に声をかけるような関係になっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居後も担当のケアマネジャーに連絡を取り 其後の様子などを聞き取るよう努めている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者本人の思いが家族によって通らない場合は 気を粉らわす方法をその都度考える。	現場には、利用者や業務の変化を記入する「連絡帳」と、利用者の半月分のバイタル、水分、食事、排泄、支援経過、看護師記録等を記入する「介護記録」がある。ケア会議等の定期的な会議の中で、利用者の思いや意向について、全職員が把握するよう努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居申し込み時にできるだけ細かく聞き把握するようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居する前と変わらない生活を提供することに努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人の現状を家族に報告し、相談しながら意見を取り入れている。	入居前の調査票を基に、1か月後に新しい計画表を作っている。利用者の担当制はなく、毎月ケア会議を実施し、利用者や家族、職員から得た情報を3か月ごとのモニタリングで見直し、意見交換を行い、現状に即した介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	申し送り時などを利用して細かく記録に残している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	常に家族様と相談し、意向に沿うように支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	月2回 移動販売車で買い物をしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医への受診を行っているが 疾患によっては入居前のかかりつけ医に受診している。	利用者全員が協力医のクリニックを受診している。以前は通院していたが、現在は、1か月ごとの往診がある。通院が必要な場合には職員が付き添う場合が多い。受診結果を家族へ連絡して情報を共有し、利用者の健康の維持・管理に努めている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	発熱時や急変時、職員が不安に思う時は常に看護師に連絡を取っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時に情報提供書を提出している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に説明し、その状態になった時再度説明し家族の意向を聞き医師と相談している。	代表者が正看護師、介護職員2名も准看護師資格を有している。利用時に重度化や終末期のあり方、看取りの有無についての意向確認を行っている。利用後の状況に応じて意向の確認を行い、看取りの経験もあるため、状態や病状の進行を見ながら、家族や医師、医療機関と連携して支援に取り組んでいる。	「重度化した場合における(看取り)指針」と「看取りの時の対応手順」を作成しているが、看取りに至る前の対応として、「重度化」や「終末期」における「指針」や「対応手順」も必要と考えることができ、それらの作成が望まれる。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	平日頃より異常の報告を看護師にするようになっていたので訓練は行っていない。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練は定期的に行っている。	年に3回(火災2回、土砂1回)の日中避難訓練を実施している。地区消防団や地域住民の協力支援は受けていないが、運営推進会議委員の区長と、夜間想定訓練を含めた地域との協力体制の協議を始めている。2週間分の水、非常食、備品を屋根裏に備蓄している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者が訴える時は 他の入居者のいない所で聞き 対応している。	男性利用者が6名、男性職員4名による同性介助体制が整っている。「就業規則」、「勤務者心得」、「苦情相談対応」に、「丁寧に、さわやかな言葉遣い、人格の尊重、個人情報遵守、プライバシーの尊重」等を明記しており、利用者一人ひとりに配慮した言葉遣い、接し方を心がけている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	移動販売車での買い物時 自分で選べる方には選んで頂き 選べない方には表情を観察し思いに沿うよう支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりの表情や状況を観察し強制することなく思うように過ごしてもらうように支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	好みの服や持ち物を把握しているので 外出時に支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	好みを把握しているので 楽しく食べられるよう支援している。	各ユニットにキッチンカウンター式の調理場があり、3食とも職員1名が工夫を凝らし調理している。利用者も調理や準備、後片付け等できるだけ関わり、利用者の好みや四季の食材を取り入れた献立で、ゆっくりとした雰囲気ですべて食事をしている。職員は見守り後にお弁当を食べている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々の一日の水分摂取量や食事摂取量を記録し把握しているので 異常の早期発見ができ 受診に支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に口腔ケアを行っている。寝たきりの方には口腔清拭を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	尿意のない入居者へは時間毎にトイレの声かけを行っている。 排泄チェックをし 排泄パターンを把握するように努めている。	個人の15日分のバイタル、水分、食事、排泄、支援経過、看護師記録を記入する「介護記録表」により、排泄リズムを把握し、さりげないトイレへの声掛けを実施している。おむつ使用者は1名、夜間は0名、他はリハビリパンツを使用している。ポータブルトイレ、離床マットの使用者は0名である。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分補給時の水分量や食事、おやつ等で工夫している。(おやつに焼きいもを提供など)		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	一人ひとりゆっくり楽しんで頂くために一人が上がってから入って頂くようにしている。 週2回を基準にしているが、要望があれば浴うようにしている。	週2日午前中の中の入浴となっているが、利用者の状態に応じて、臨機応変に対応している。入浴剤は使用しないが、ゆず等の季節湯を提供し、湯張りは継ぎ足しで対応している。車椅子のシャワー浴は、4名が利用している。脱衣所には冷暖房を完備している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの思いに沿い支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	申し送り時や業務中を利用して薬の説明をし 職員が把握できるようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	毎朝 日めくりカレンダーをめくったり カーテンを開けてもらうなどしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	散歩やドライブなど入居者の希望に沿うよう支援している。	コロナ禍になり、面会、たけふ菊人形、お花見、外食、市内イベント、地域交流等、小グループの外出が中止となった。敦賀きらめき広場イルミネーションの見学は行くことができた。天候を見ながら散歩やドライブ等は可能になってきている。面会は状況を見て可能となっているので、利用者は外出ができることを楽しみにしている。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	月2回移動販売車での買い物を楽しみにしており 好きなものが買えるよう支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	暑中見舞いや年賀状を書くなどの支援をしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感を感じて頂くために四季に応じた飾りを工夫している。	2つのユニットは、木造平屋建てと鉄筋2階建てという違いはあるが、内装に木を多く使用したぬくもりあるバリアフリーの空間になっている。共用空間にはキッチンカウンター、壁には大きなテレビ、書額、手作り作品、利用者の写真等を程よく飾っている。窓の外には自然の景色が広がり、季節を感じ心地よく過ごせる環境である。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	廊下にタタミの長イスを置き 誰でも座れるよう工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人のなじみのある物や安心する物を家族と相談し、居室内に置いている。	居室には、利用者の馴染みの家具、付帯設備である一間幅の押し入れ、ベッド、エアコン、チェストを置いている。居室には、トイレや洗面所がないため、清潔で居心地よく過ごすことができる、落ち着いた空間となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	安全に安心して過ごすことができるよう支援している。		